

NDC10 版アンケート結果報告

「TRC MARC ニュース 第31号」にてお願いしました「NDC10 版アンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。おかげさまで貴重なご意見を多数頂戴することができました。お忙しいなかご協力いただき、ありがとうございました。寄せられたご意見を参考に決定した、アンケート対象の分類における TRC MARC の適用も併せてお知らせいたします。

INDEX

I アンケート実施概要	1
II アンケート集計結果	
1. NDC10 版採用の検討状況について	
【問 1】 現在採用している NDC の版	2
【問 2】 NDC10 版の採用予定	2
【問 3】 NDC10 版を採用されない理由(問 2 で「予定していない」と回答した図書館のみ)	3
【問 4】 NDC10 版を採用した場合の蔵書の背ラベルの貼り替え	4
2. NDC10 版の適用について	
【問 5】 147.9 その他の超常現象	7
【問 6】 210.025 考古学	10
【問 7】 290.38 地図	14
【問 8】 596 食品. 料理	16
III アンケート対象の分類における TRC MARC の適用	19

I アンケート実施概要

■調査目的

NDC10 版採用の検討状況および NDC10 版適用に関する意見の把握

■実施期間

2016 年 5～6 月

■調査方法

TRC MARC ニュース第 31 号にアンケート用紙を同封し、FAX にて回収

■調査対象

TRC MARC を採用されている図書館

■有効回答数

243 館

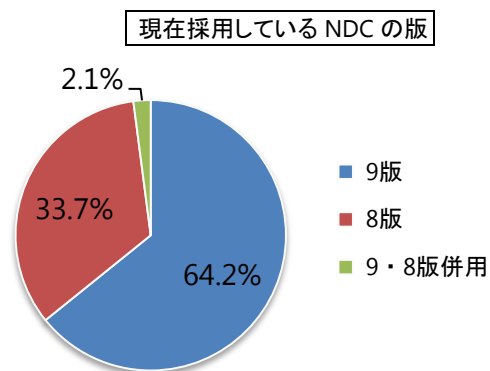
II アンケート集計結果

※集計結果の割合(%)について:端数処理のため、構成比が100%にならない場合があります

1. NDC10 版採用の検討状況について

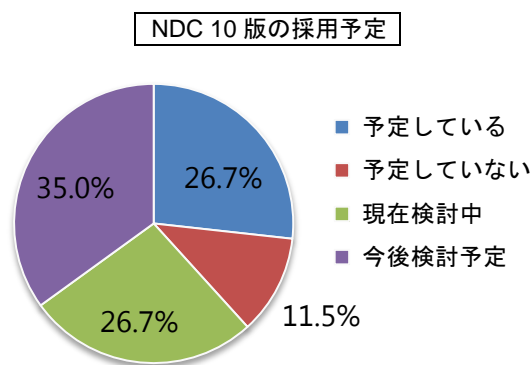
【問 1】現在ご採用の NDC の版を教えてください。

現在採用している版	館数	割合(%)
9 版	156	64.2%
8 版	82	33.7%
9・8 版併用	5	2.1%



【問 2】NDC10 版の採用を予定されていますか。

NDC10 版の採用予定	館数	割合(%)
予定している	65	26.7%
予定していない	28	11.5%
現在検討中	65	26.7%
今後検討予定	85	35.0%



★問 2 で「予定している」と回答した館の内訳

採用予定開始時期	館数	割合(%)
2016 年	1	1.5%
2017 年(以降を含む)	32	49.2%
2018 年(以降を含む)	2	3.1%
2019 年	2	3.1%
2020 年	2	3.1%
採用中	4	6.2%
検討中・未定・無回答	22	33.8%

《ご参考》 問 1 と問 2 のクロス集計

※表中の割合(%)は全回答数(243 館)における数値

現在の版 10 版の採用	9 版		8 版		9・8 版併用	
	館数	割合 (%)	館数	割合 (%)	館数	割合 (%)
予定している	35	14.4%	29	11.9%	1	0.4%
予定していない	21	8.6%	5	2.1%	2	0.8%
現在検討中	36	14.8%	28	11.5%	1	0.4%
今後検討予定	64	26.3%	20	8.2%	1	0.4%

・9 版採用館(156 館)のうち、10 版採用を「予定している」または「現在検討中」と回答したのは 71 館(9 版採用館の 45.5%)

・8 版採用館(82 館)のうち、10 版採用を「予定している」または「現在検討中」と回答したのは 57 館(8 版採用館の 69.5%)

【問 3】 問 2 で「予定していない」と回答された図書館にお聞きします。差支えなければ、NDC10 版を採用されない理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を主な理由別に分けて掲載しております

■現状の版で問題がない

- ・10 版への変更の緊急性を感じていない為(9 版・市立)
- ・現在使用している版で特に問題がないため(9 版・町立)
- ・現状 4 ケタ表記を基本としており、変更の必要性が高くない(9 版・市立)
- ・芸術専門の図書室であるため、影響が出るとは考え難いため(8 版・専門)

■システムの問題

- ・現在導入している蔵書管理システムが NDC10 版に対応していないため(9 版・町立)
- ・システムの更新をしたばかりなので(9 版・市立)
- ・使用している PC ソフトの対応がまだなされていない為。また、その費用も予算化されていない為(9 版・市立)

■移行作業の問題

- ・最近 NDC 第 9 版に変更したばかりなため、背ラベルの貼り替えが必要なため(9 版・市立)
- ・開館してまもないこともあり、変更が追いつかない(9 版・市立)
- ・NDC9 版と 8 版を併用しており、10 版を採用するとラベル貼り替えなどの対応が困難なため(9・8 版・市立)

■予算・費用の問題

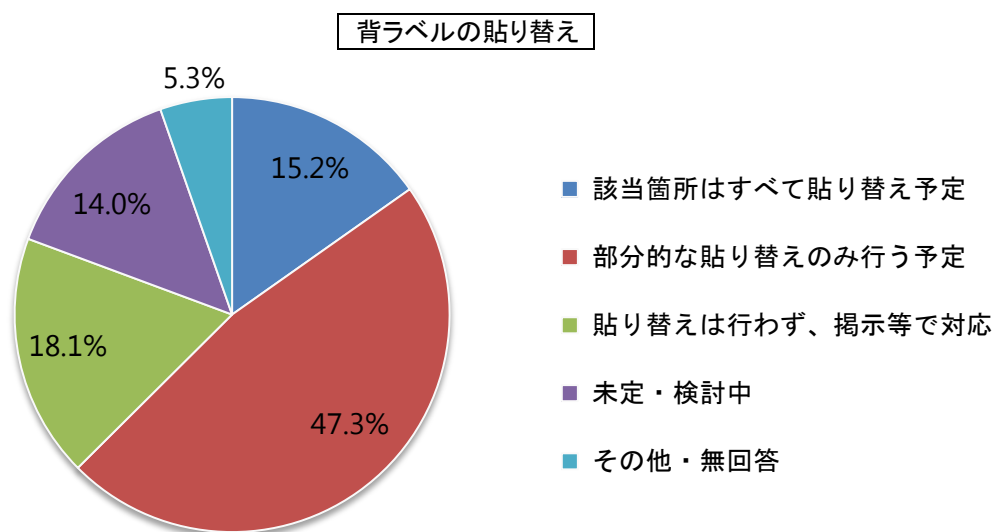
- ・8 版(一部 6 版)を維持しているため、乗り換えに多大な費用と時間と人手がかかるため(8 版・都府県立)
- ・版を変更する事による労力に対して費用対効果が見込めないため(9 版・町立)
- ・予算の都合(9 版・町立)

■その他

- ・まずは 9 版に移行して運用したい(8 版・市立)
- ・現在採用している NDC9 版が提供終了となった場合には、最新版の採用を検討する予定(町立・9 版)

【問 4】 NDC10 版を採用した場合、蔵書の背ラベルの貼り替えもされますか。

背ラベルの貼り替え	館数	割合 (%)
該当箇所はすべて貼り替え予定	37	15.2%
部分的な貼り替えのみ行う予定	115	47.3%
貼り替えは行わず、掲示等に対応	44	18.1%
未定・検討中	34	14.0%
その他・無回答	13	5.3%



★上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を回答別に掲載しております

■該当箇所はすべて貼り替え予定

- ・現在所蔵している図書の背ラベルと今後購入した本に付く背ラベルを合わせるため(8版・市立)
- ・似た内容の本が同じ棚にあるように配架したいため。開架棚から優先的に実施することになると思う(9版・市立)
- ・図書システムで検索した情報と配架場所が違ってしまうので、利用者だけでなく、職員も的確な情報を入手できなくなるため(9版・町立)
- ・データとラベルを統一し、館内で探しやすくするため(9版・市立)
- ・資料が探しづらくなるのを防ぐため(9版・町立)
- ・データと現物の資料の状態を同じにし、配架等しやすくするため(8版・町立)
- ・配架等の混乱を防ぐため(9版・町立)
- ・資料の所蔵をわかりやすくするため(9版・市立)
- ・現状が8版であり、10版を採用した場合長期にわたって使用されると思われるため(8版・村立)
- ・NDC10版導入以降に受入する図書と異なる配架になることを避けるため。対応しなくてはならない冊数も多くないと思われるので(9版・市立)

■部分的な貼り替えのみを行う予定

- ・開架図書のうち、改訂内容・必要性に応じて検討(9版・市立)
- ・利用の多い所のみ貼り替えをして、あとは掲示等でお知らせをしていく予定(9版・町立)

- ・貸出の多い資料については、状況を見ながら徐々に貼り替えになると思われる(8版・市立)
- ・棚構成を見たうえで必要と判断したもののみ貼り替える(9版・市立)
- ・廃止項目を中心に貼り替え作業を行う(9版・市立)
- ・すべての貼り替えには時間的、人力的な対応が難しいため、大きく支障のある部分については貼り替えを行い、それ以外については、データ収集等の必要が生じた際、そのタイミングで MARC の確認を行い、必要に応じて貼り替えを行う形をとりたい(9版・市立)
- ・該当するものでも冊数が少ない等の理由で貼り替えを行わなくても利用に支障がない場合は、貼り替え作業を行わないため(9版・町立)
- ・8版から9版を採用した際、一部の資料はラベルの貼り替えを行った。10版を採用した場合も同様の対応となる予定(9版・区立)
- ・当館の背ラベルは分類記号3ケタまでの仕様であり、大きな貼り替えは必要ないと判断されるため(9版・市立)
- ・情報学の分類は桁数が多くなるので、従来通りの分類とし、別置で対応するため(9版・町立)
- ・現在007と548の混在等があるので、当館の書架にあわせ該当資料について少しずつ貼り替えていきたい(9版・町立)
- ・全てを貼り替えるのは作業量が多いため、現在コーナーとして対応している情報学関連分野を中心に、必要と思われる部分を随時変更します(9版・市立)
- ・同書架内に9版・10版が混在してしまう場合は貼り替える。別置ラベルで対応できるものは貼り替えない(9版・市立)
- ・すでに10版の分類で表示しているものもあるため(9版・市立)
- ・古い蔵書も多いため、開架にある資料のみの対応で十分だと考えています(9版・町立)
- ・パソコン関係の古い物は閉架に入れるか除籍検討しますので、開架フロアにあるものだけ貼り替える予定(9版・市立)
- ・全ての貼り替えは予算的にも人的にも現実的ではない。しかし、一部の分類は8版と10版の混配が難しいものもあるため、必要な部分だけは貼り替えざるを得ないと思われる。(TRCでラベル出力サービスをしていただくと大変助かるのですが...) (8版・市立)
- ・すべて遡及するまでに、再度NDCの変更のおそれがあるため。OPACでの検索で配架位置が確認できるから(8版・市立)
- ・すべて貼り替えるのは蔵書量的に不可能。掲示で利用者に伝えるのは難しいため(9版・市立)
- ・全て貼り替えると作業量が膨大になるため(8版・市立)
- ・作業量と利便性のバランスをとって(9版・市立)
- ・時間も予算も取れない(9版・市立)

■貼り替えは行わず、掲示等で対応

- ・背ラベルの貼り替えは行わず、掲示・別置等で対応予定(9版・市立)
- ・分類番号で本を探される利用者のごくごくわずかなので、まずは掲示してお知らせしてみる(9版・市立)
- ・貼り替え対象が少ないため(8版・市立)
- ・対象点数が多いため。8版→9版時も、貼り替えずに対応(9版・市立)
- ・どのくらいの冊数を訂正するかわからないため(9版・市立)
- ・背ラベルを貼っていないため(9版・町立)
- ・貼り替え作業の人員・予算とも、当分確保の見込みが無いため(8版・町立)
- ・貼り替えの作業に人手を割けない。検索することで必要な資料にたどりつける(9版・都府県立)
- ・現在も、007、547.48、582.33は並列配架しているので、大きな変更は必要ないと考えています。9版と10版で大幅に分類が異なる場合は、状況に応じて適宜その部分のみ9版の分類を継続して採用する等、弾力的な運用を検討します(9版・市立)

- ・現在のところ、「掲示等に対応」→「部分的な貼り替え」→「該当箇所はすべて貼り替え」の段階的移行を考えている。来年度以降、新版による分類が生じた際に、所蔵本との齟齬があると思われる場合(新着本(発行時期の新しいもの)は10版本表および別法にて決定する)TRCでの9版→10版への切替を参考にしたい(9版・町立)
- ・7版から8版に切り替える際、相当な時間が必要であった。当時の倍近い蔵書数(40万超)を貼り替えする時間と費用を考えると貼り替えのメリットは少ないと判断した(8版・市立)

■その他

- ・貼り替えたいとは思っていますが、8版から10版への変更ということで対象となる資料が相当数あるので、迷っています(8版・市立)
- ・検討中であるが、費用および作業量の点で受入済資料の背ラベルの「貼り替え」は困難かと考えている(8版・都府県立)

2. NDC10 版の適用について

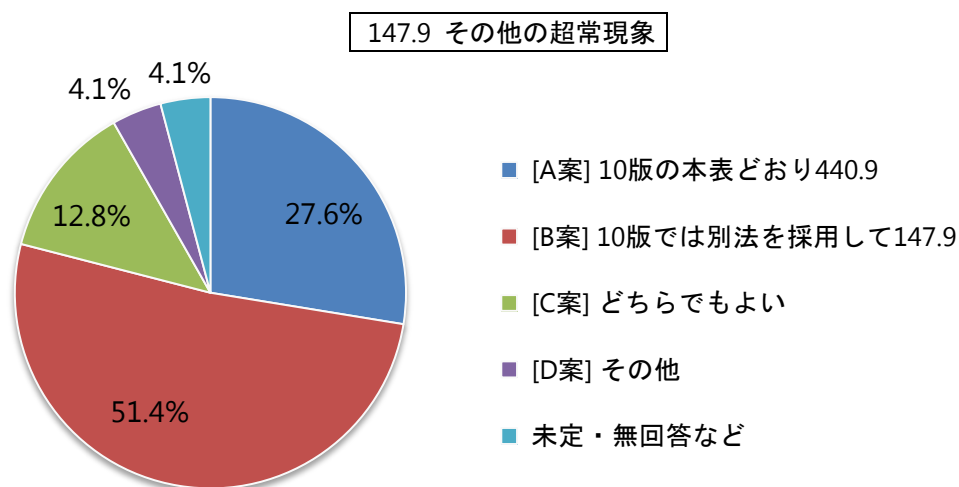
【問 5】 147.9 その他の超常現象

10版で上記の項目が新設され、「* 未確認飛行物体[UFO]は、440.9に収める(別法:ここに収める)」と注記されています。10版の試案説明会資料によりますと「UFO は天文学とは無関係であるとの指摘が天文学関係団体出されたことから、別法を設けた」とのことです。

未確認飛行物体[UFO]について、10版では別法を採用して147.9に収めたいと考えておりますがいかがでしょうか？以下のA～D案の中からお選びください。

《集計結果》

147.9 その他の超常現象	館数	割合(%)
[A案] 10版の本表どおり440.9	67	27.6%
[B案] 10版では別法を採用して147.9	125	51.4%
[C案] どちらでもよい	31	12.8%
[D案] その他	10	4.1%
未定・無回答	10	4.1%



★上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を主な理由別に分けて掲載しております

[A案] 10版の本表どおり440.9

■440.9の方が適当

- ・未確認飛行物体は地球外生命体(物体)であることが一般的であり、また、心理学に収まることに違和感があるため(9版・市立)
- ・UFO が天文学と無関係であると確定しかねるため(9版・市立)

- ・超常現象に決定づけるものがないため。可能性として UFO が存在する%が少しはあると考える。0%ならもちろん 147.9(9 版・市立)
- ・未確認飛行物体も宇宙の中の現象のひとつとして捉え排架しているため、10 版の本表通りの運用としたい(9 版・市立)
- ・未確認生物が 4 類のため(8 版・市立)

■利用者の利便性

- ・利用者の方は、UFO という宇宙をイメージしやすいことが想定される(8 版・市立)
- ・所蔵本は「440」で受入れしている。利用者の立場から考えると A 案が混乱が少ないため(9 版・市立)
- ・利用者の興味・関心から考えると天文学のジャンルに収めるのが適当と思われる(9 版・市立)
- ・UFO は超常現象ともとれるが、宇宙との関連をイメージする人が多いのではないかと思うため(8 版・市立)
- ・利用者の利便性のため、現在使用している 9 版からの変更がない(9 版・都府県立)

■配架・背ラベルの問題

- ・なるべく大きな背ラベル替えはしたくないため。440.9 も 147.9 も違和感はどちらにしても感じるので、あえて変える必要を感じません(9 版・市立)
- ・当館では宇宙人:440、UFO:538 に主に分類されており、棚構成を考えたとき、新たに 147 を追加するのは得策ではないと判断しました(9 版・市立)
- ・本の配架が移動しないので(9 版・市立)
- ・NDC9 版で整理した図書と混排できるため(9 版・都府県立)

■その他

- ・現在 8 版を採用しており、10 版の A 案 B 案どちらにも該当しませんが、本表通りがわかりやすいと思うため(8 版・町立)
- ・なるべく NDC 通りにするのが、区の方針であるため(9 版・区立)

[B 案] 10 版では別法を採用して 147.9

■440.9 は適当ではない／147.9 の方が適当

- ・UFO は天文学よりも超常現象として一般的には認識されていると思われるため(9 版・町立)
- ・マスコミなどで超常現象として説明されることが多いため(8 版・市立)
- ・UFO の存在が科学的ではなく、何か UFO に見えるという心理学的なものと思われる(8 版・市立)
- ・超常現象と同等の内容に扱われることが多く感じるため(一方で“超心理学・心霊研究”よりは、“天文学・宇宙科学”の方が関連がある、とする意見もみられる)(8 版・都府県立)
- ・科学的根拠のない分野は 147.9 でよいと思われる。ただし、同様に考えるならば、480 の未確認生物の類でも 147.9 に分類されるのではないか? という疑問が残る(9 版・市立)
- ・538.9 でなくなるのであれば配架が変わるという意味では A 案も B 案も差異はないが、天文学宇宙学に分類するより超心理学の方が違和感がないから(8 版・市立)
- ・確かに、UFO は天文学とは無関係だと思うので、超常現象でよいと思う。ただ、宇宙人に関しては、本の内容によって超常現象と天文にわかれるのではないか(地球外知的生命探査)(8 版・市立)

■関係団体からの指摘に従う

- ・天文学関係団体が無関係を指摘しているから(9版・市立)
- ・天文学関係団体からの指摘は正しいと思うため(9版・町立)

■利用者の利便性

- ・UFOについては、未確認動物等の本と一緒に取り扱われている場合が多くあり、特に児童書はシリーズ本として出版されているのが多いため、147.9の方が良いと思われる(9版・市立)
- ・天文学の並びにUFOの資料は馴染まない。利用者の興味の傾向を考えた時に、心霊研究の分類の方が利用者にとって探しやすい(9版・町立)
- ・児童書ではミステリー・超常現象・UMAなどとまとめられている場合が多く、別法の方が利用者の探しやすさが上がると考えるため(9版・町立)
- ・UFOを自然科学として探すよりは、超常現象などとして147.9で探す人が多いと思われるため(当館では440より147の貸出が多い)(9版・町立)
- ・未確認飛行物体[UFO]については、天文と同類にしてしまうと誤解が生じる場合がある。特に児童書に関しては重要なことなので、別法を支持する(9版・町立)

■配架・背ラベルの問題

- ・分類147に所蔵された他の資料との関係性を考えると(書架から受ける印象なども含めて)UFOだけ切り離す事はない(8版・学校)
- ・今までが147の方なので変えたくない(9版・市立)
- ・旧版からの貼り替えを行わないため、できる限り整合性を持たせたい(9版・都府県立)

[C案] どちらでもよい

- ・該当する資料の所蔵があまりないため(8版・区立)
- ・蔵書数が少ないので、どちらになっても変更が簡単である(9版・市立)
- ・本の内容により、その都度判断する(9版・市立)
- ・当館では購入の方向にない為(9版・町立)
- ・147.9とした場合、それまでの蔵書背ラベルとズレがでてしまうが、天文学関係団体の主張ももっともであると考えため(9版・市立)
- ・利用者によって「未確認飛行物体」に対する認識が異なっており、どちらの配架が適切か決められない(8版・市立)

[D案] その他

- ・内容が科学よりかそうでないかで分ける。科学的観点のものがあれば、440.9の方が違和感がない(8版・市立)
- ・一般件名「宇宙生物学」にどの分類を付与するのかにもよる。UFOと宇宙人は同じ分類のところに配架したいので(9版・市立)
- ・9版の現時点で所蔵している資料数から見て147.9に移動するか検討したいと考えています(9版・市立)

【問 6】 210.025 考古学

10版で「特定地域全般に関するものおよび個々の遺跡・遺物に関するものは、211/219に収める；ただし個々の遺跡・遺物に関するものでも一国の歴史に関係ある遺跡・遺物は、日本史の特定の時代に収める」と注記が変更されました。

TRC MARC ではこれまでの各版の注記に従い、8版では210.2に集中し、9版では個々の遺跡・遺物は日本史の特定の時代に収め、時代が判明していない個々の遺跡・遺物は各地域の歴史に収めていましたので、大きな影響があると考え分類委員会に問い合わせた結果が下記になります。

Q)「個々の遺跡・遺物に関するものは、211/219に収める；ただし個々の遺跡・遺物に関するものでも一国の歴史に関係ある遺跡・遺物は、日本史の特定の時代に収める」と注記が変更されました。9版では、“個々の遺跡・遺物は日本史の特定の時代に収める”という注記により、個々の遺跡・遺物は日本史の特定の時代に収め、時代が判明していない個々の遺跡・遺物は地域史に収めてきました。

試案説明会資料によりますと「地域は時代に優先するという原則に従って変更した」とのことですが、この影響は大きなものであること、8版では210.2に集中させており、それが9版・10版と版が変わるごとに取り扱いが変更になります。NDCの版が変わるごとに適用が変わる種類のものでもないと思えますが、いかがでしょうか？

A)ご指摘の通り、個々の遺跡・遺物については、各版で異なった位置づけがなされてきました。

・8版では210.2(原始時代)の中に考古学関連資料全般が分類されることとなり、異なる時代の遺跡が混配される問題が生じていました。

・9版では、210.025に日本考古学<一般>を位置づけることとしましたが、「個々の遺跡・遺物に関するもの」は時代が優先される一方、特定地域全般の遺跡・遺物は地域が優先されることとしたため、区分特性が一貫しない問題が残りました。

・10版ではこの問題を解消するため、各地域・時代の遺跡・遺物であれば、区分の優先順序を①地域別区分、②時代別区分としました。ただし、遺跡によっては210.2/7に分類する方がふさわしい場合も考えられることから、例外的に210.2/7に分類することも許容することとしました。

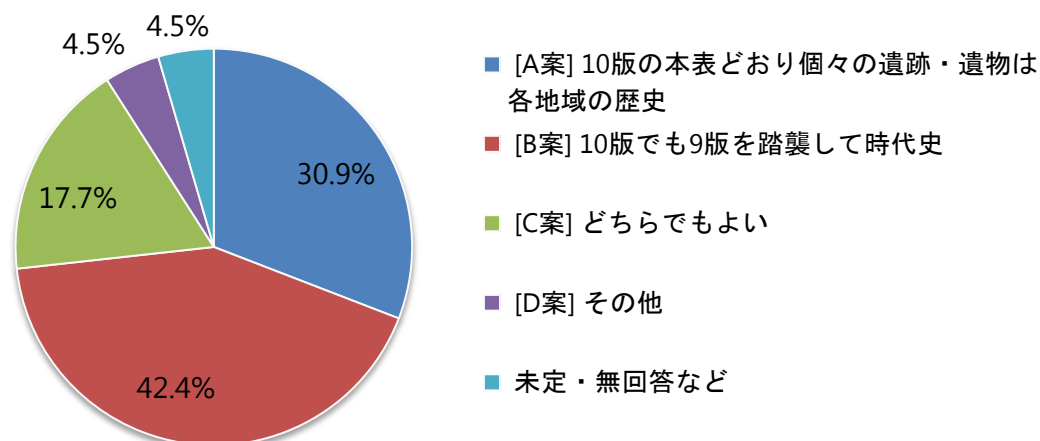
以上のように区分特性を明確化したために、版ごとに置き場所が異なる結果となってしまいました。今後は、大規模改訂を行わない限り、区分特性が更に変更される可能性は低いと考えられます。ご理解のほどをお願いします。

10版の適用にあたっては以下のどの案がよいでしょうか？以下のA～D案の中からお選びください。

《集計結果》

210.025 考古学	館数	割合 (%)
[A 案] 10版の本表どおり個々の遺跡・遺物は各地域の歴史	75	30.9%
[B 案] 10版でも9版を踏襲して時代史	103	42.4%
[C 案] どちらでもよい	43	17.7%
[D 案] その他	11	4.5%
未定・無回答	11	4.5%

210.025 考古学



★上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を回答別に掲載しております

[A案] 10版の本表どおり個々の遺跡・遺物は各地域の歴史

■各地域の歴史を優先する方が適当

- ・各遺跡・遺物については、各地域史としての側面が強いため(8版・都府県立)
- ・地域の歴史と不可分なものであるため(9版・町立)
- ・時代が判明していない遺跡・遺物があったとしても、地域が明確であるものがほとんどであるため、地域を優先して区分した方がよいと考えたため(9版・町立)
- ・時代が判明していない個々の遺跡・遺物に関するものが、一貫した場所に配置できない問題を重要視したため(9版・市立)
- ・研究の結果、時代区分が変更となる可能性はあるが、地域区分が変更となる可能性は低いため(9版・区立)
- ・8版、9版の問題解決策であり、今後の変更がないとのことなので(8版・町立)
- ・時代が正しく考証されているとも限らない。確実な地域別区分の方が整理しやすい(8版・市立)

■資料の検索性、利用者の利便性など

- ・時代で分類するよりも、地域で分けた方が探しやすいため(8版・町立)
- ・地域別区分でまとめられている方が、特定の場所の遺跡を探しやすいかと思われるため(9版・町立)
- ・時代史で区分すると特定の分類に図書が集中してしまい、書架で図書を探す際に煩雑になるため(9版・都府県立)
- ・時代で分類すると、同じ地域内にある遺跡であっても、配架する棚が分かれてしまうため、関連がわからない(8版・市立)
- ・「遺跡によっては例外的に特定の時代に分類する」という許容範囲が設けられるのであれば、地域別区分で分類した方が探しやすいと思われるため(9版・市立)
- ・地域の歴史の中で考古学だけが210に分かれてしまい使い勝手が悪く、10版の本表どおり各地域の歴史の中に収めたいと思っていました(9版・市立)

- ・個々の遺跡や遺物に関する資料は、地域別に分類したほうが図書館により身近な地域の遺跡や遺物がわかりやすく、利用者も使いやすいと思う(8版・市立)
- ・利用者からの問合せに対して、各地域の歴史に含まれていた方が対応し易いとするため(9版・町立)
- ・地域に関するレファレンスが多いため(9版・市立)
- ・地域の資料をわかりやすくしたい為(9版・市立)
- ・「地域は時代に優先」とともに、現場においても1ヶ所に集中して分類されることにより、利用者への提供の機会が増すと考えられる(9版・市立)

[B案] 10版でも9版を踏襲して時代史

■時代史を優先する方が適当

- ・時代背景と密接に関わる分野だと思われる(9版・町立)
- ・9版の日本史の特定の時代にまず収め、時代が判明していない個々の遺跡・遺物は各地域の歴史に収めるの解釈が妥当と思われる為(9版・町立)
- ・「一国の歴史に関係ある」という定義がわかりにくいから(8版・市立)
- ・地域に関係なく、同じ時代の遺跡はまとまって並んでいた方がよいため。また、遺跡が作られた時代に関する歴史書も同じ場所にある方がよいため。近隣地域以外の地域史は町の図書館では余り収集していないという現実もある(8版・市立)

■学校での学習との関係

- ・地域(性)より時代(性)に重点を置いて学習すると思うので(9版・市立)
- ・学校では時代史にそって学んでいるため、時代史を優先すべきだと思う(9版・町立)
- ・教科書は時代優先。そのため、当館利用者の検索行動も時代が優先(8版・学校)

■郷土資料との関係

- ・地域優先にすると郷土資料がすべて同じ分類になってしまうため(9版・市立)
- ・遺跡・遺物は地域より時代から連想して本を探すことが多い為。また、地域の遺跡・遺物は郷土資料として置いてある為(8版・市立)
- ・郷土関係は別法(長野県郷土資料分類法)に依って分類・別置しており、その他資料については地域別にわけよりも現行どおり時代別とした方がわかりやすいと思われるため(9版・市立)

■利用者の利便性

- ・歴史に関わる資料は、時代に沿って順番に並べてある方が利用しやすいとの指摘を利用者から受けたことがあるため(9版・町立)
- ・利用者は時代別に書棚を探すことが多いと思うので(8版・市立)
- ・現在の蔵書をふまえると9版を踏襲する方が好ましい。利用者の側から考えても、「日本史」は年代別を優先した方が受け入れやすいと思われる。また出版点数からも211/219は少ない冊数のため、影響は少ない(9版・市立)
- ・当館の所蔵状況をみると、211～219の冊数は極めて少なく、210.2や3の棚に遺跡の本が多く収められているため、利用者の利便性から見ると、多く収められている棚で探す人が多いと思われます(9版・町立)
- ・第3次区分まで統一されていた方が、検索性が優る(自館で想定した場合)(9版・町立)
- ・郷土(県内)については地域で細分化したいが、それ以外は時代史の一部としてとらえているため(9版・市立)
- ・当館でも両論あるが、利用者への定着と、探しやすさを考慮して(9版・市立)

■前の版との継続性

- ・できるだけ旧版を踏襲したいので(8版・都府県立)
- ・出来るだけ混乱(職員の)を避ける為、まずは9版を基準に考えていきたい(9版・市立)
- ・8版は210.2に集中している。時代史で排架しているため、B案の方がなじむのではないかと思います。ただ今後11版、12版...とずっと地域史に位置づけられるならA案にするのもありかもと考えます。現在、棚の状態は、時代史が主で、地域史はアジア史の方にきています(8版・市立)

■配架・背ラベルの問題

- ・所蔵している点数も多く、現在所蔵する資料の分類を変更すると、利用者が混乱するおそれがあること、データやラベルの修正に時間と手間を要することから、9版の踏襲が望ましいと考える(9版・市立)
- ・背ラベルの貼り替えや棚移動を少なくするため(8版・市立)
- ・所蔵数が多く貼り替えが困難なため(9版・市立)
- ・現在所蔵してあるものと同じにしたい(9版・市立)
- ・問5以上に関連蔵書が多く、8版→9版→10版と取扱いを変えたくはないため(背ラベル貼り替えを行わないので)(9版・市立)
- ・旧版からの貼り替えを行わないため、できる限り整合性を持たせたい(9版・都府県立)
- ・当館請求番号に反映させるのは3ケタまでが基本となっており、A案では棚構成が難しいため、B案を希望します。(210については4ケタまで採用している)(9版・市立)

■その他

- ・当館では地域史を時代史に変更する独自の分類をとっているため(8版・市立)
- ・当館の日本史の書架は、歴史資料館内にあり、時代史ごとの文化財の展示と共に図書資料の配架をしているため、時代史に基づいた分類である方が良い(9版・町立)

[C案] どちらでもよい

- ・資料の内容によってどちらとも考えられるため(9版・市立)
- ・出版、受け入れ数がそれほど多くない(8版・市立)
- ・運用にあたってどちらでも不便はなさそう(9版・区立)
- ・時代で分けたい図書館、地域で分けたい図書館両方が考えられるので、どちらか選択できるような形になるとよいかと思います(別法等を使用)(9版・町立)
- ・そういった資料を時代的観点から探す人もいれば、場所的観点から探す人も、どちらもいると考えられるので(9版・市立)

[D案] その他

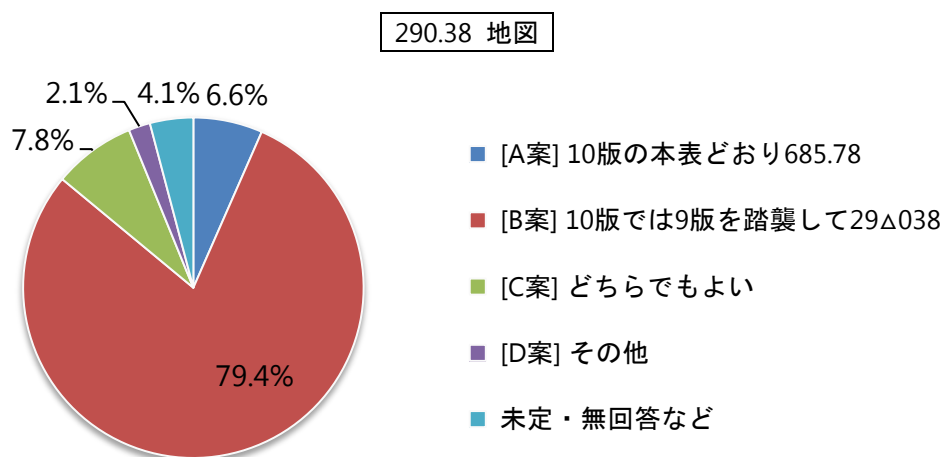
- ・当館では、遺跡・遺物に関する資料の収集点数が少ないため、遺跡調査報告書のNDC210.0254は採用せず、8版の210.2で対応している。したがって、10版が採用された場合も、8版のままにする予定(9・8版・市立)

【問 7】 290.38 地図

10 版で「* 道路地図[ロードマップ]は、685.78 に収める(別法:29△038)」という注記が追加されました。9 版で「685.78 道路地図[ロードマップ]」が新設されていたのですが、TRC MARC では、9 版採用時のアンケート結果と 9 版分類委員会のご意見等を勘案した結果、8 版を踏襲して別法である 29△038 に収めてきました。10 版の適用にあたっては別法とはなりますが、9 版・8 版を踏襲し 29△038 としたいと考えておりますが、いかがでしょうか？以下の A～D 案の中からお選びください。

《集計結果》

290.38 地図	館数	割合(%)
[A 案] 10 版の本表どおり 685.78	16	6.6%
[B 案] 10 版では 9 版を踏襲して 29△038	193	79.4%
[C 案] どちらでもよい	19	7.8%
[D 案] その他	5	2.1%
未定・無回答	10	4.1%



★上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を主な理由別に分けた上で掲載しております

[A 案] 10 版の本表どおり 685.78

- ・別置で対応するため分類が変わっても問題がない(8 版・市立)
- ・2 門に分類する必要性を感じないため(9 版・町立)
- ・学校図書館としては、その方が適切と思われるため(9 版・学校)
- ・現在も 685 にて発注しているため(8 版・市立)

[B 案] 10 版では 9 版を踏襲して 29△038

■利用の観点

- ・道路地図の利用は旅行や観光目的が多いため(8版・町立)
- ・道路地図を求める方には、旅行ガイド等も一緒に探される方が多いので、9版を踏襲した方が、資料の提供がスムーズである(9版・町立)
- ・旅行書の補完としての利用が可能のため。また、地図は交通よりも地理の方が配架的に良いと思う(9版・町立)
- ・29△で既に定着しており、変更は利用者にとって不便になると予想される(9版・町立)
- ・地域別で区分した方が細分化でき、わかりやすいと考えたため(9版・町立)
- ・道路地図も地理、地誌と通ずるものであり、例えば旅行ガイドを見ていて、より詳細な地図が見たくなった場合、同一分類にあった方が利便性が上がる。よって、9版の踏襲の方が、当館では使いやすいと考える(9版・市立)
- ・29～に他の旅行関連資料が揃っているため、同分類の方が同時に探しやすい。ただし当館では、別置ラベルを貼り、ガイドコーナーに配架してあるため、683.7に変更されたとしても支障がない(9版・市立)
- ・分類法に基づきたいところですが、当館では、利用目的により、29△.038の方が適していると判断(9版・市立)
- ・利用者の利用状況を考え、日本地図や県地図類と同一の場所に揃えておきたい(9版・都府県立)
- ・当館では8版を利用しており、10版のA案だと以前あった場所と変わってしまい、利用者が困惑してしまう(8版・市立)

■配架変更・背ラベル貼り替え作業の問題

- ・当館は8版を使用中なので、ラベルの貼り替えを行わずに済むから(8版・市立)
- ・所蔵数が多く貼り替えが困難なため(9版・市立)

■29△038の方が適当

- ・地図は290、地理・地誌・紀行に分類されるのが適当だと思います(8版・市立)
- ・ロードマップは産業より地理的意味合いが強いと思われる(8版・市立)
- ・ロードマップは地理学の方が合うのではないだろうか(9版・市立)

[C 案] どちらでもよい

- ・ロードマップは別置しているため、どちらでも支障がないため(9版・町立)
- ・判断がつかないから(9版・町立)
- ・NDC6版当時の6分類が現在も混在しているが、最新版は地図の置き換え記号を使っているため、あまり支障はないと思われる(9版・都府県立)

[D 案] その他

- ・当館では道路地図にNDC(背ラベルなし)を採用していないため(8版・市立)

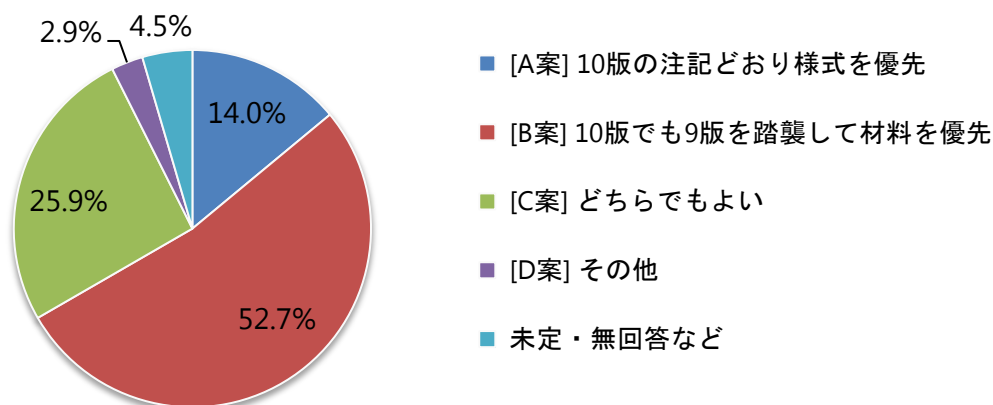
【問 8】 596 食品. 料理

10 版で「* 様式と材料の両方にまたがる場合は、様式を優先して分類する」という注記が追加されました。TRC MARCでは、9 版・8 版とも「様式と材料の両方にまたがる場合は、材料を優先」してきました。10 版の注記と異なる適用とはなりますが、9 版・8 版と同じ適用を 10 版でも踏襲したいと考えておりますが、いかがでしょうか？以下の A～D 案の中からお選びください。

《集計結果》

596 料理	館数	割合 (%)
[A 案] 10 版の注記どおり様式を優先	34	14.0%
[B 案] 10 版でも 9 版を踏襲して材料を優先	128	52.7%
[C 案] どちらでもよい	63	25.9%
[D 案] その他	7	2.9%
未定・無回答	11	4.5%

596 食品.料理



★上記を選択した理由を教えてください。(自由記述)

※以下、ご記入いただいたコメントの一部を主な理由別に分けて掲載しております

[A 案] 10 版の注記どおり様式を優先

■利便性の問題

- ・材料別に並んでいる書架より、様式別に並んでいる書架の方が見やすいと感じます。(利用者目線が必要な分類なので) (9 版・町立)
- ・利用者は材料別で探す場合、事典や索引を利用することが多いと思うので、NDC は様式別で十分と考えられる(8 版・市立)

- ・材料別だと分類が細かすぎて却って本を探しづらい。様式が同じものは材料に関係なく同じ場所に並ぶ方がよい(8版・市立)
- ・料理をするとき、様式を決めてから材料を購入する人の方が多いと思われる(8版・市立)
- ・材料より様式に関するレファレンスを受けることが多いため(8版・市立)
- ・利用者の目的を考えるとA案だと思いますが、当館請求番号3ケタなため現段階では決めきれないところです。希望はA案採用のうえ、様式の中で材料別に並べるなど棚を工夫させたいです(9版・市立)

■現在の版・配架との継続性

- ・当館では、様式を優先した分類をしているため(9版・市立)

[B案] 10版でも9版を踏襲して材料を優先

■利便性の問題

- ・材料を優先させる方が、利用者の感覚に近く、利用者が本を選びやすいと考えるため(9版・町立)
- ・当館では、材料から探す利用者が比較的多いと思われたので、B案を選択しました(9版・町立)
- ・料理本を見る際、利用者は材料を優先して本を探すと思うから。たとえば魚料理なら和洋中を考える前にどんな魚料理があるかを見たうえで好みの本を選ぶ方が楽なので、問7同様、利用者の利便性を重視した(8版・市立)
- ・材料を優先することで料理法の選択肢が広がる方が有効であり、利用者の立場でも材料別の配架優先が利用しやすいと考えた(9版・町立)
- ・利用が多い分野であり、材料優先から様式優先にした場合、これまでと配列がことなり、混乱をまねく恐れがあるから(9版・都府県立)
- ・材料優先の方が探しやすいのではないかと考える。しかし一方では、地域別の料理を調べる場面の区分も必要ではないかと考える(9版・町立)
- ・材料で料理本を探す利用者の方が多いため(レファレンスで探す時も同様)できるだけ旧版を踏襲したい(8版・都府県立)
- ・当館は3ケタのみで表示しているため、A・Bともに表示上は同じ。様式よりも材料優先の方が(配架したときに、利用者にとって)選びやすいのではないかと考えたため(8版・町立)
- ・変更された理由が明確にされていないので、この場合は今まで利用者の方に慣れ親しんでいる8・9版と同じ適用がよい(9版・市立)

■配架・背ラベル貼り替え作業の問題

- ・所蔵冊数が多いため、材料を優先した9版をそのまま採用したい。10版を採用した場合、ラベルのはりかえに相当な時間がかかるため(9版・市立)
- ・背ラベルの貼り替えや棚移動を少なくするため(8版・市立)
- ・これまでの方法を変更するとラベルをはりかえる必要があるが、そこまでして様式優先にするほどメリットがあるとは考えられないので、いままでどおりでよいと考える(9版・市立)
- ・現在の蔵書構成がかなり変更されるため、利用者に混乱を来すから(9版・町立)
- ・旧版からの貼り替えを行わないため、できる限り整合性を持たせたい(9版・都府県立)
- ・関連蔵書が多く、取扱いを変えたくないため(9版・市立)
- ・レシピ本には追加で色分けするシールを貼って、材料や様式ごとに分かれるようにしているが、材料別テーマにしたものの方が多いため(9版・市立)
- ・材料毎に別置シール等を貼って棚に配架しているので、変更したくない(9版・市立)
- ・NDC9版で整理した図書と混排できるため(9版・都府県立)

■その他

- ・様式を優先するならば、10 版の 596.21／596.23 では分類がざっくりしすぎていても足りない(9 版・市立)
- ・教科書は食品の選択→調理(8 版・学校)
- ・レファレンスの際、その方が活用しやすいので(9 版・市立)

[C 案] どちらでもよい

- ・背ラベルが 3 桁までとって配架場所が一緒で、どちらでも支障がないため(9 版・町立)
- ・実際を考えたとき、どちらでも良いと思う。決まった方に合わせます(8 版・市立)
- ・どちらにしてもメリット・デメリットがあるため(一般利用者が本を探すうえで、それほど大きな違いはないと思われます)(8 版・町立)
- ・背ラベルは「596」のみで、ジャンルごとに色シールで対応しているため。なお、様式によるジャンル分けを行っている(9 版・区立)
- ・小規模館なので、どちらでも大差はない。その分類の資料は、長期保存しないものが多い(9 版・町立)
- ・A 案を選択する者は資料を探す際は様式から探すとし、B 案を選択する者は材料からと述べる。このほかの A 案の選択理由としては別法ならともかく分類法の注記と異なる内容を適用することは混乱の恐れがあると考えられるもの。なお、館内における意見集約の結果は、B 案の選択がわずかに上回った(8 版・都府県立)
- ・当館では調理法や様式、材料等の見出しを作り、それに応じて分類している。どちらになっても現時点では問題ないと考えため、C 案を選択した(8 版・市立)
- ・料理本についてはすでに分類とは別に見出しやシールを使用して独自のジャンルを分けており、どちらになっても影響がないため(9 版・市立)

[D 案] その他

- ・A 案:△、B 案:×。複数の材料を使うのが料理なので難しい。596 以下は細分類せずに様式→種類→材料または調理法で色分けしてる。冊数が増えた分野のみ抽出して色分け、ラベル分けしているため、当館では問題視していない。一般的に A 案の方が分け易いと思われます(9 版・町立)

Ⅲ アンケート対象の分類における TRC MARC の適用

いただいたご意見を参考に、TRC MARC における NDC10 版の適用を以下のとおり決定いたしました。
なお、NDC9 版・8 版については従来の適用から変更はありません。

【問 5】 147.9 その他の超常現象

(10 版本表より)

147.9 その他の超常現象【新設】

* 未確認飛行物体[UFO] は、440.9 に収める(別法:ここに収める)

■ TRC MARC の適用

10 版では別法を採用し、未確認飛行物体[UFO]は 147.9 に収めます。

■ 適用例

タイトル	10 版	9 版	8 版
UFO・宇宙人大図鑑	147.9	440.9	538.9

■ 適用理由

天文学関係団体からの指摘を受けて別法が設けられた経緯もあり、アンケートの回答のうち 5 割以上で[B 案: 別法を採用して 147.9]が支持されたことから、[B 案]を採用します。

【問 6】 210.025 考古学

(9 版本表より)

210.025 考古学

* ここには、日本全般に関するものを収める

* 特定の地域全般に関するものは、211/219 に収める 例:215.4 静岡県の考古遺跡一覧

* 個々の遺跡・遺物に関するものは、日本史の特定の時代に収める(別法:211/219) 例:210.27 登呂遺跡(別法:215.4)

(10 版本表より)

210.025 考古学

* ここには、日本全般に関するもので時代を特定しないものを収める

* 特定の地域全般に関するものおよび個々の遺跡・遺物に関するものは、211/219 に収める; ただし、個々の遺跡・遺物に関するものでも一国の歴史に関係ある遺跡・遺物は、日本史の特定の時代に収める 例:215.4 静岡県の考古遺跡一覧

■TRC MARC の適用

10 版で変更された注記「個々の遺跡・遺物に関するものは、211/219 に収める;ただし個々の遺跡・遺物に関するものでも一国の歴史に関係ある遺跡・遺物は、日本史の特定の時代に収める」は採用せず、9 版を踏襲して「個々の遺跡・遺物に関するものは、日本史の特定の時代に収め」ます。

■適用例

タイトル	10 版	9 版	8 版
三内丸山遺跡の復元	210.25	210.25	210.2
登呂遺跡のなぞ	210.27	210.27	210.2
高松塚古墳の研究	210.34	210.34	210.2
よみがえった平安京ー埋蔵文化財を資料に加えてー	210.36	210.36	210.2

■適用理由

アンケートの回答では、[A 案:10 版の本表どおり個々の遺跡・遺物は各地域の歴史]が 30.9%、[B 案:10 版でも 9 版を踏襲して時代史]が 42.4%とご意見が分かれ、弊社内でも検討を重ねました。最終的に[B 案:10 版でも 9 版を踏襲して時代史]に決定した理由は、次のとおりです。

- ①アンケート結果で、[B 案:10 版でも 9 版を踏襲して時代史]支持が 5 割は超えないものの 42.4%あり、[A 案:10 版の本表どおり個々の遺跡・遺物は各地域の歴史]支持を 11.5%上回っている。
- ②学校教育において遺跡は「日本史の各時代」に沿って学ぶため、利用者も時代から連想して資料を探す場合が多いと考えられる。
- ③10 版の注記では「個々の遺跡・遺物に関するものは、211/219 に収める」としつつ「ただし、個々の遺跡・遺物に関するものでも一国の歴史に関係ある遺跡・遺物は、日本史の特定の時代に収める」としているが、この「一国の歴史に関係ある遺跡・遺物」の範囲が明確ではない。この点について分類委員会に質問したところ、以下の回答をいただいた。

・遺跡によっては 210.2/7 に分類する方がふさわしい場合も考えられることから、例外的に 210.2/7 に分類することも許容することとしました。

・何をもって“一国の歴史に関係ある”とみなすかは、図書館によって判断が異なると思われませんが、個々の遺跡は所在する地域にまず分類し、次いでその遺跡の存在した年代を固有補助表で細分することが NDC10 版の基本的な考え方ですので、“日本史の特定の時代に収める”遺跡は限定的であるべきであるというのが分類委員会の見解です。

・なお、「平城京」や「平安京」は特定の時代で、「三内丸山遺跡」は地域史との考え方は妥当と考えます。

(『TRC MARC ニュース 第 31 号』p16～17)

しかし、例えば「三内丸山遺跡」は縄文時代の大規模遺跡として教科書等に記載されており、日本史の時代史から探す利用者が多いと考えられる。そこで「一国の歴史に関係ある遺跡・遺物」の範囲について、「中央政治に関わる遺跡」に加えて「教科書に取り上げられている遺跡」「特別史跡」などと定義して

はどうかと検討したが、境界線上の遺跡もあり、結果として時代史と地域史のどちらで探せばよいのか利用者にとってわかりづらいものになることが懸念される。

④10版の注記のとおりとした場合、地域に関わる資料を集中できるという利点があるが、地域に関わる遺跡の資料は各図書館において郷土資料として別置されている場合が多い。アンケートの回答でも、郷土以外の遺跡については現行どおり時代別とした方がわかりやすいとのご意見が多く、全国書誌の分類としては9版を踏襲する方がよいのではないかと懸念される。

⑤10版の注記のとおりとした場合、朝鮮・中国・インドにおいても個々の遺跡・遺物は各地域に収めることになるが、和資料が中心の公共図書館・学校図書館では、各国の地域史よりも各国史に収めた方が利用しやすいと考えられる。

10版の適用は上記としましたが、[A案:10版の本表どおり個々の遺跡・遺物は各地域の歴史]を支持するご意見にあった「遺跡・遺物は地域の歴史と不可分である」「時代が判明していない個々の遺跡・遺物に関する資料が一貫した場所に配置できない」といった問題は残りますので、次回改訂の課題とさせていただきます。

※なお、遺跡・遺物の発掘調査報告書については、TRC MARCでは9版で国立国会図書館が新設した「210.0254 発掘調査報告書」を採用し、210.0254に収めてきました。10版でもこれを踏襲し、発掘調査報告書は210.0254に収めます。

■適用例

タイトル	10版	9版	8版
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書	210.0254	210.0254	210.2
東古佐遺跡発掘調査報告書	210.0254	210.0254	210.2

【問7】290.38 地図

(10版本表より)

290.38 地図

* ここには、一般図を収め、主題図は各々の下に収める 例:203.8 歴史地図, 454.9 地形図, 613.59 土性図

* 道路地図[ロードマップ] は、685.78に収める(別法:29△038)

■TRC MARCの適用

10版では別法を採用し、道路地図[ロードマップ]は29△038に収めます。

■適用例

タイトル	10 版	9 版	8 版
全国道路地図	291.038	291.038	291.038
北海道道路地図	291.1	291.1	291.1
東京都道路地図	291.36	291.36	291.36

■適用理由

アンケートの回答の 8 割近くで[B 案:10 版では 9 版を踏襲して 29△038]が支持されたことから、10 版でも 9 版・8 版を踏襲して 29△038 に収めます。

【問 8】 596 食品. 料理

(10 版本表より)

596 食品. 料理

* 様式と材料の両方にまたがる場合は、様式を優先して分類する

■TRC MARC の適用

10 版で追加された注記「様式と材料の両方にまたがる場合は、様式を優先して分類する」は採用せず、9 版・8 版を踏襲して「様式と材料の両方にまたがる場合は、材料を優先して分類」します。

■適用例

タイトル	10 版	9 版	8 版
和食の魚料理のおいしさを探る	596.35	596.35	596.3
イタリア魚介料理	596.35	596.35	596.3
使える魚介レシピ ースーパーで買える魚介で作れる。和・洋・中106品。ー	596.35	596.35	596.3

■適用理由

利便性の観点からは、様式で探したい場合、材料で探したい場合の両方があると考えられますが、いただいたご意見を拝見すると、材料から探す利用者が比較的多いようです。アンケートの回答の 5 割以上で[B 案:10 版でも 9 版を踏襲して材料を優先]が支持されたことから、10 版の適用にあたって 9 版・8 版を踏襲します。

NDC10 版アンケート結果報告

2016 年 9 月 16 日発行

編集・発行 株式会社 図書館流通センター データ部

〒112-8632 東京都文京区大塚三丁目 1 番 1 号

電話 03-3943-2229

FAX 03-3943-2231